

Alma Mater

SAPIENTIA

英知大学同窓会会報

第2号 Oct. 15, 1994

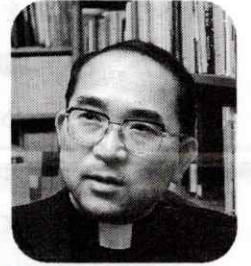
発行：英知大学同窓会
兵庫県尼崎市若王寺2-18-1
TEL. (06) 498 6258
発行責任者：野村 裕
編集：英知大学同窓会総務委員会

新学長に中野正勝師就任

井上前学長に変わり、中野正勝学長が新しく就任されました。中野新学長は、同窓会の月例会にも出席されるなど、意欲的に業務に取り組んでおられます。その中で、大学を揺るがすような大きな同窓会になってくださいとのお言葉を頂きました。いま、日本の大学は、大学院大学の設置や、研究機関としての見直しなど大きな変革期を迎えようとしています。わが英知大学も大きく変わろうとしています。新学科の設置や、大学院開設の準備など、これからますます改革が推し進められて行くことでしょう。我々同窓会も大学の変革に対応できるような体制づくりが急務となります。大学の転換期に対する中野新学長への期待は大きく高まっています。

中野学長の経歴

1944年兵庫県に生まれる。
1962年東京カトリック大神学院に入り、上智大学の哲学科に通ってカトリック司祭への道を歩み始める。68年、同大学院哲学研究科哲学専攻を経て、ドイツのフランクフルト聖ゲオルグ神学大学で組織神学を学ぶ。ドイツで司祭に叙せられて帰国し、英知大学で教鞭を執る傍ら、学生課長や教会での宣教にも従事した。その後再び留学、ローマの教皇庁立ウルバノ大学大学院で組織神学の修士と博士課程を終了。神学博士の称号を得た。帰国後、英知大学で組織神学を教えながら宗教主事、図書館長、副学長の要職を務め、大阪田辺教会の主任司祭としても9年間、人々の司牧にあたる。



専門は組織神学、特にカトリックの福音と日本文化の出会い及び土着化の研究。本学の教育が、世界と日本のすべての人々に愛と平和の実現と発展に寄与することを願っている。

同窓会に寄せて 学長 中野正勝

この四月から、前井上学長の後を継いで新しく学長になりました。よろしくお願い致します。紙面を借りまして皆さまにご挨拶申し上げます。私の英知大学との関わりは、創立当時に遡ります。英知大学のただ一つの建物は現在の教室棟で、それ以外は運動場と言えは聞こえはいいのですが、実は雑草が生える泥濘でした。夏休みには決まって駆り出されて椅子や机を運んだり、草刈りなどをしたのを覚えています。その後、ドイツ、ローマに留学しましたが、日本に戻ると英知大学神学科で教えておりますので、英知大学とのつながりは、ずいぶん長いこととなります。

英知大学は建物も増え、学生数も1626名と、大きく成長して、先生方や職員の方々も多くなりました。学科の方も二年前に国際文化学科が新設されて五学科になり、来年には大学院を申請して、再来年度からは宗教文化専攻と英語学英米文学専攻の二コースからなる人文科学研究科の新設が計画されています。学部においても、新しく図書館司書の免許が取得できるよう、今年の秋には新設課程を申請する予定になっています。大学改革にも取り組んでおり、理念目的検討委

員会、カリキュラム検討委員会、学生の皆さんと話し合いによる意見聴取の集いも設けられています。

英知大学も今年で創立31年になります。卒業生も5000名余を数えるようになりました。ここで今やらなければならない大切なことの一つが、同窓会の充実であろうと思います。まず、同じ教室で学んだ卒業生の皆さんのお互いの親睦交流を深め、愛する母校のことに心を砕いて、その発展を支えて下さる必要があるからです。学生課長をさせて頂いた頃に、初代の執行部の方々と同窓会の大切さや、現実の歩みとしての卒業生の名簿の作成について一緒に語った記憶がありますが、草分け時代としての暗中模索の中を、同窓会として良くまとめられて来られました。第二代の執行部が新たに結成された今、毎月一回の会合をもち、会報も発行されて、意欲的に頑張っておられます。また、関東には支部も出来て活躍しておられると伺っています。頼もしい限りです。大学としても窓口として、同窓会のアルバイトの方に週一回就職課で常駐していただくことにしました。また、例会には、毎月、就職課の須澤課長に参加していただいています。皆さんが英知に帰って来られたときは、顔をのぞかせてください。私も喜んで皆さんをお待ちしています。

名簿整理に御協力を！

現状 同窓会名簿は先輩方の努力で昭和61年に発行されました。その後、数回の増補版が「61年版名簿」に追加される形で発行されてきています。これが「赤い表紙の名簿」です。

次にメーリング用のデータベースがあります。皆様の手元に郵送されてくる封筒の宛名がこれに当たります。印刷業者の宛名用の専用機に入っています。これが「メール用データ」です。

以上の「61年版名簿+増補版」と「メール用データ」が同窓会の全データでした。当然印刷物である「61年版名簿+増補版」の訂正はありません。「メール用データ」は不定期に更新されてきていますが不完全なものです。

新役員会では 同窓会の基礎とも言える連絡用のデータベースの構築、名簿の整備が最大関心事となっています。ところが整理を始めてみるといろんなことが出てきました。まず、ダブルブッキングが7.72%あります。卒業年次の確定ができていませ

ん。卒業式に配布できるように、前もって卒業予定者名簿で名簿を作成していることが原因です。

当然ながら「名簿」と「メール用データ」は異なります。一方にあって、もう一方にないデータも出てきました。どのデータが正しいのかがだんだん怪しくなってきました。現在のデータ数は、5,365件。今データ整備をやらないと数も増え、ますます困難になるばかりです。就職課の御協力を得て土曜日に役員が大学で大調査を敢行しています。

御協力を こうして訂正を加えたデータで今回の連絡をさせて頂いています。不備な点があることは承知の上です。今まで届いていたメールが戻る危険を省みず、訂正を加えたデータを試用しています。不明者の数もかなりにのぼります。また卒業生でないデータもかなりの数見受けます。同級生でお分りのデータがあれば是非ご連絡を頂けますようお願い申し上げます。来期には「新・同窓会名簿」を発行したく計画中です。皆様の御協力をお願いして報告と致します。

ために、少しでもお力添えをお願いいたします。なお会社のご採用ご担当には、いつでも訪問させていただきます。ご説明とお願いをいたしたいと存じます。

[今年度の就職課方針]

- (1) 求人市場の拡大
 - ・1500社の「求人ファイル」の整備
 - ・同窓会との協調活動
 - ・積極的な企業訪問
- (2) 閲覧室の機能強化
 - ・閲覧資料と図書の充実
 - ・情報交換と活動相談
- (3) 就職課機能の整備と体制強化
 - ・役割分担の明確化
 - ・業務の標準化
 - ・可能な限り機械化を図る
- (4) '95年度への課題
 - ・「就職の手引き」を完成
 - ・中長期計画とビジョン作り

須澤課長・紹介
昭和21年8月生。
早稲田大学文学部
(西洋美学専攻)
卒業後、マスコミ
業界・コンピュータ
業界で活躍。昨年12月松下電器
産業で営業として
人事・求人に関わった経験を活か
すべく、本学に迎
えられる。本年4
月に就職課課長に
就任。頼りがいのある
ナイスガイです。(編)

'94 Home Coming Day

卒業生の皆様へ！

今年も華やかに、そして盛大に Home Coming Day を開催致します。

皆様が旧交を温め、さらに交友を深め合う場所にできればと考えております。

とくに、卒業後20年目の皆様、10年目の皆様(1974年卒、1984年卒の皆様)の参加を希望いたします。

友人との連絡を取り合って、ふるってご参加下さい。

同窓会役員一同、お待ちしております。

同窓会 関東支部 紹介

関東支部は、平成3年7月13日に旗揚げをし、現在まで延べ4回の支部総会を開催しております。もっとも総会とはいうものの、支部活動をはじめ本部の総会や役員会の報告等も当然行うのですが、故郷から遠く離れ、母校にそう簡単には戻れない同窓生のための、東京で開かれる「Home Coming Day」といった方がより適切かもしれません。一昨年から支部役員会の代表が、本部総会などにも出席したり、本年6月の第4回支部会には、本部の新会長が出席されるなど、市民権が確立された感がします。

現在のところ、関東一円に約140名の同窓生が住んでおります。その内、毎回20名前後の同窓生が集合します。さらに注目に値するのは、総会後の二・三次会にも90%が引き続き参加しています。

もっとも良いことばかりではありません。大学から離れていることで、総会や役員会の会合などに使える場所がないことなど、ハンデにも事欠かないのも事実です。しかし、それだけに支部員同士の結束は固く、同じ英知の卒業生ということで、仲間意識という共通の何かを持っていることの喜びは、きっと本部では感じる事の出来ないことでしょう。

一方、総会開催の案内とともに関東支部ニュースも発行し、支部員全員に配布しています。支部員からの寄稿文なども掲載されており大変好評です。支部以外の方でもご希望があれば送付いたします。

さて、最後にご紹介しておきたいのは、関東支部独自の事業として、「情報ネットワーク」なるものを作成していることです。今では支部員の約40%の方々からさまざまな情報を頂いており、支部員の間でのみ使用することを目的としたデータバンクです。見知らぬ土地で苦勞をしている者同士、共通点を見つけたり、励まし合ったり、多種多様な可能性を秘めています。内容が充実して行くに従い、そろそろこの「情報ネットワーク」も活用され始めたよう、支部役員一同益々張り切っております。

～学園だより（現役生より先輩へ）～

平成5年4月、英知大学に新しい流れが生まれました。国際文化学科の誕生です。この学科は異文化の中の人間に対する理解を深めることによって、真の国際人を育成する場です。ここでは、自らの異文化への新たな視野を拓けようと懸命に学ぶ学生が集まっています。

新学科設立に際して新学舎が教室棟と研究棟の間、本館と学生会館の間にそれぞれ建てられました。また、校舎の色も明るいきりくりに塗り替えられ、その雰囲気も大きく変わりました。

新しい学科が設立されたことにもなるとともに学生数も増え、学内の活気も以前よりさらに満ちてきました。これまでは語学大学のような色合いが濃かったのですが、文化を中心に学ぶ、これまでとは異なった学生が加わることによって、よりアカデミックになったといえるでしょう。

一度、母校を訪れてみてください。先輩方が学ばれた学園とは少し違った英知大学があるはずです。

西文3回生 奥田 知生
国際文化1回生 多田 敦

編集後記

前回の会報創刊号は写植上がりの姿を想像しながら行なったものでした。当然、完全な形で編集できるはずもなく、いざでき上がってくると考えもしなかったスペースが空いてしまったり、字数が増えてしまったりと大混乱でありました。

今回、TSSの田中氏の全面的な御協力により、コンピューターの上で編集を行なうことができました。これにより、労力と時間が節約できました。しかし、なにぶん皆が忙しいこともあり、今回もまた締め切り間近の大急ぎの作業です。

ページ数、記事内容などもっとボリュームを増やしたかったのですが今回は見送りとなってしまいました。皆さん御協力を。

同窓会総務委員会 日高順一郎
大月 力
編集協力 田中 秀樹
井本 英樹